

平成30年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

1. 事務事業の概要

□ 完了 ■ 評価対象 ■ 行計対象

事務事業名 (中事業)	27383 ヘルシークッキングスクール開催事業				
基本政策	01 とともに支え合い、笑顔輝くあたたかなまち				
政策	03 自立生活を支える健康づくり				
施策	01 自主的な健康づくり活動の推進				
実施形態	一部委託				
事業期間	単年度	平成28年度～			
要求区分	継続	予算区分	政策		
事業の実施を市に義務づける国の法令					
有無	なし				
法令名 条 項	健康増進法第4条				
予算科目	01-040103-060600				
部 名	24 暮らし安心部	課 名	03 健康課		
課長名	塩崎 さゆり	T E L	22-3111	内線	360

2. 対象・目的・内容

事業概要	<p>対象 市民</p> <p>内容 講話・調理実習 3回 調理実習でのレシピを広報、ホームページで公開し周知する。</p> <p>場所 みらいえ 保険医療課と共催</p>
事業の対象 (誰・何を)	市民
事業の目的 (どういう状態にするために)	健康づくりを推進するために、主に食生活・栄養に関して教室を開催することで、市民が食生活や栄養について学び、個人にあった健康習慣の確立と、実践ができるようになり、疾病予防につながる。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	内容 講話・調理実習 3回

3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費							
	国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源	
平成27年度決算額	0	0	0	0	0	0	0	
平成28年度決算額	234	0	0	0	0	0	234	
平成29年度決算額	269	0	0	0	0	0	269	
平成30年度予算額	376	0	0	0	0	45	331	

4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成29年度のこの事業に 従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成29年度 決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.05	0.00	0.05	390	269	659
事業費の主な用途		委託料			

平成30年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指 標 名	参加者数				単 位	人
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値			30	30		
	実 績 値	31	24				
	経 費 (千 円)		659				
単 位 当 た り の コ ス ト	0	27.46					
活動 指標 ②	指 標 名	受講後、味付けが薄くなった人の割合				単 位	%
	説 明 や 数 式	参加者アンケートより					
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値	47.8	44				
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト	0	0					
成 果 指 標 ①	指 標 名	受講後、天然だし利用者増加割合				単 位	%
	説 明 や 数 式	参加者アンケートより					
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値	60.9	12				
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト	0	0					
成 果 指 標 ②	指 標 名	受講後、野菜を3皿以上食べる人の増加割合				単 位	%
	説 明 や 数 式	参加者アンケートより					
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	目 標 値						
	実 績 値	25.4	8				
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト	0	0					
実 績 ・ 成 果 等 の 説 明	活動指標 教室の参加者数をあげた。 活動成果 教室の目標としている指標についての割合をあげた。						

6. 評価

1 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性) : 2	事業の必要性 : 4	実施主体の妥当性 : 3
		直接のサービスの相手方 : 1	受益者負担の適切さ : 4	市民ニーズの把握 : 5
	事 業 の 総 合 評 価	拡充		
説 明	受講前と受講後を比較し、参加者の食生活改善に係る行動変容を確認することができ、健康意識の向上に効果的であったと考えられる。 今後は新たな参加者の増加により、地域全体の食生活改善ひいては生活習慣病予防を図っていく必要がある。			
2 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性) : 3	事業の必要性 : 1	実施主体の妥当性 : 3
		直接のサービスの相手方 : 1	受益者負担の適切さ : 4	市民ニーズの把握 : 5
	事 業 の 総 合 評 価	改善・見直し		
説 明	講話と調理を組み合わせる方法により、受講者の健康意識の向上には一定の成果があると考えられる。また、比較的人気のある講座であり、一定の参加者数は常に確保できている。しかし、受講者には、元々健康に対して関心が高い方を中心に構成されていたり、リピーターが半数近くを占めているようであり、本来受講すべき対象者をどう参加させるかが課題であるとする。そのため、講座の内容はもちろんであるが、チラシの内容も「おいしい・楽しい」といった要素を前面に出し、健康無関心層に届くような工夫が必要だと思われる。			